

# 文学・どこへゆくのか

## 第II期 作家が受け継ぐもの

長く文芸ジャーナリズムのなかであって、現代文学の実情を見てきた湯川豊と尾崎真理子をナビゲーターとして、現代文学の展開をたどる連続企画。第II期では、戦後文学の実相を追った第I期を承けて、作家が文学の伝統から、何を、どのように受け継ぐのか、現代に生きる作家たちの言葉を通して、文学のゆくえを探ります。

### 聞き手・ナビゲーター：湯川豊 尾崎真理子

① 辻原登 2024年4月7日(日)

② 池澤夏樹 4月27日(土)

③ 小川洋子 5月18日(土)

④ 平野啓一郎 6月16日(日)

各回とも 14時開演(13時30分開場) \*未就学児の入場はご遠慮ください

会場 神奈川近代文学館 展示館2階ホール(定員220名・全席自由)

料金 各回 一般1,200円、神奈川近代文学館友の会会員1,000円(税込)

#### 参加申し込み方法

各回とも、お電話(045-622-6666)またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・参加人数をお知らせください。料金はそれぞれ当日のお支払い、先着順で定員になり次第受付を終了します。お申し込みをいただいた方には、当日9時30分から展示館1階ミュージアムショップで入場整理番号付きチケットを販売します。



申込フォーム  
QRコード

主催 県立神奈川近代文学館・公益財団法人神奈川文学振興会

横浜・山手 港の見える丘公園 Kanagawa Museum of Modern Literature

県立神奈川近代文学館

〒231-0862 横浜市中区山手町110

tel.045-622-6666

https://www.kanabun.or.jp

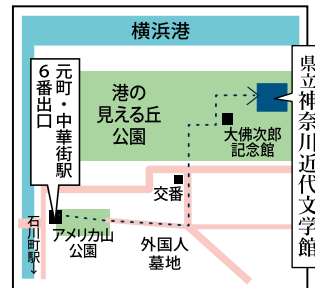
<ACCESS GUIDE> ※駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

<東急東横線直通・みなとみらい線> 元町・中華街駅下車 6番出口(アメリカ山公園口)から徒歩10分

<バス> いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

神奈川中央交通バス①系：桜木町駅～保土ヶ谷駅／横浜市営バス②系：桜木町駅～山手駅／観光スポット周遊バス「あかいづつ」

<JR根岸線> 石川町駅下車 元町口(南口)から徒歩20分





撮影・森清

辻原登

つじはら・のぼる

1945年、和歌山県生まれ。1990年「村の名前」で芥川賞を受賞。『翔べ麒麟』で読売文学賞、『遊動亭円木』で谷崎潤一郎賞、『枯葉の中の青い炎』で川端康成文学賞、『花はさくら木』で大佛次郎賞、『闇の奥』で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。他に『許されざる者』、『韃靼の馬』、『冬の旅』、『隠し女小春』、『熱い読書したい読書』、『東京大学で世界文学を学ぶ』など著書多数。神奈川近代文学館館長。



© KANA IKEZAWA

池澤夏樹

いけざわ・なつき

1945年、北海道生まれ。ギリシア詩、現代アメリカ文学を翻訳する一方で詩集『塩の道』『最も長い河に関する省察』を発表。1988年、小説『スティル・ライフ』で芥川賞を受賞。『母なる自然のおっぱい』で読売文学賞、『マシマス・ギリの失脚』で谷崎潤一郎賞を受賞。他に『楽しい終末』（伊藤整文学賞）、『静かな大地』（親鸞賞）など著書多数。『池澤夏樹＝個人編集 世界文学全集』全30巻、『池澤夏樹＝個人編集 日本文学全集』全30巻を刊行。



撮影・森清

小川洋子

おがわ・ようこ

1962年、岡山県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1991年「妊娠カレンダー」で芥川賞を受賞。『博士の愛した数式』で読売文学賞、『ブラフマンの埋葬』で泉鏡花賞、『ミーナの行進』で谷崎潤一郎賞、『ことり』で芸術選奨文部科学大臣賞、『小箱』で野間文芸賞を受賞。他に『生きるとは、自分の物語をつくること』（河合隼雄との対話）など著書多数。海外にも多くの愛読者を持つ。



撮影・道本幹也

平野啓一郎

ひらの・けいいちろう

1975年、愛知県生まれ。北九州市出身。京都大学法学部卒。1999年「日蝕」で芥川賞を受賞。『葬送』、『高瀬川』、『顔のない裸体たち』、『決壊』（芸術選奨文部科学大臣新人賞）、『ドーン』（Bunkamura ドゥマゴ文学賞）、『かたちだけの愛』、『透明な迷宮』、『マチネの終わりに』（渡辺淳一文学賞）、『ある男』（読売文学賞）、『本心』など著書多数。2023年『三島由紀夫論』で小林秀雄賞を受賞。



湯川豊

ゆかわ・ゆたか

1938年、新潟市生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後、文藝春秋入社。「文学界」編集長、取締役・編集総局長などを経て2003年に退社。以後東海大学文学部教授、京都造形芸術大学教授など。編集者として大岡昇平、丸谷才一、須賀敦子など多くの作家を担当した。著書に『本のなかの旅』『夜の読書』『丸谷才一を読む』など。2009年刊行の『須賀敦子を読む』で読売文学賞を受賞。2019年には長編評論『大岡昇平の時代』を上梓した。



尾崎真理子

おざき・まりこ

1959年、宮崎生まれ。青山学院大学文学部卒業後、読売新聞社入社。大江健三郎、谷川俊太郎らへのインタビューや評論執筆を行う。同社編集委員などを経て、2022年まで早稲田大学教授。著書に『現代日本の小説』、『大江健三郎 作家自身を語る』（大江氏との共著）など。『ひみつの王国 評伝 石井桃子』で芸術選奨文部科学大臣賞、同作品を含む執筆活動により日本記者クラブ賞、『大江健三郎の「義」』で読売文学賞を受賞。神奈川文学振興会理事。

..... 「文学・どこへゆくのか 第I期」のダイジェスト版をご覧ください。 .....

- ・神奈川近代文学館 デジタル文学館  
(<https://www.kanabun.or.jp/material-data/digital-literature-museum/>)
- ・神奈川近代文学館 公式 note  
(<https://kanabun-museum.note.jp/>)



デジタル文学館



公式 note

.....

2024年3月30日(土)～6月2日(日) 特別展「帰って来た橋本治展」

2024年6月8日(土)～8月4日(日) 企画展「没後15年 庄野潤三展 ―生きていたことは、やっぱり懐かしいことだな!」  
同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち 第1部 夏目漱石から萩原朔太郎まで」

開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで) / 休館日：月曜日(4月29日、5月6日、7月15日は開館)、6月4日(火)～7日(金)